

床板絵でカラフルに

富山市ファミリーパーク（同市古沢）の「どんぼの沢」周辺で整備され、車椅子やベビーカーでも散策を楽しめる「さとやまの木道」に、広場「森の駅」が完成した。完成式が23日に行われ、来園者が床板に絵やメッセージを描き、カラフルに仕上げた。【webunに写真3枚】



子どもたちが動物や似顔絵

さとやまの木道は、呉羽丘陵の整備や活用に取り組みNPO法人きんたろう倶楽部（鏡森定信理事長）が2013年から、県内の民間企業の支援を受けて整備している。木材は県産の間伐材を活用し、木道は現在約80坪まで延びた。来園者やファミリーパーク動物友の会会員らが床板に絵を描いて華やかに彩っている。

森の駅は約36平方メートル。この日は完成を祝い、射水市のアイリッシュハーブ奏者、一守明子さんの演奏会を開き、アイルランドの伝統曲などが森の中に響いた。子どもたちは床板に動物や似顔絵、名前などを自由に描いた。

山村潤さん（富山市奥田小1年）は「クリスマスツリーを描いた。広い場所に絵を描けて楽しかった」と笑顔を見せた。鏡森理事長（72）は「読み聞かせや合唱、吹奏楽などの発表の場として活用していきたい」と話している。北日本新聞社後援。

「森の駅」の床板に絵を描く子どもたち